

ビジネスシューズの種類とデザイン

ビジネスや冠婚葬祭など、シーンに適したビジネスシューズを選ぶとき、「この靴を履いて場違いにならないだろうか」と悩んだことはないでしょうか。

ビジネスシューズを選ぶうえでは、前提として革靴の種類を知っておくことが重要です。

そのうえで、着用するシーンがフォーマルな場か、カジュアルな場であるかを考慮して、どんな靴を履くべきか判断します。

＊羽根の形状＊

ビジネスシューズとして着用される革靴は、羽根（紐を通す穴が並ぶ部分）の形状によって主に次の2種類に分けられます。

【内羽根式】

羽根が甲の部分と一体になっている革靴。冠婚葬祭や他の企業との会合など、フォーマル度の高いシーンでの着用に適しています。



内羽根式でストレートチップのシューズ。あらゆるフォーマルなシーンに対応する万能の1足

外羽根式でプレーントウのシューズ。パーティや結婚式の2次会など、ややカジュアル寄りのシーンに適している



内羽根式で、穴飾りが施された明るい茶色のシューズ。一気にカジュアルな印象が増す



ソール・コバ・つま先・アイレット等の細部の仕様で全体の印象が大きく変わる



これでもう

困らない

ビジネスシューズはさまざまなシーンで着用する機会がありますが、靴選びで迷うことも少なくありません。シーンに応じたビジネスシューズの選び方を解説します。 編集部

「ビジネスシューズ」の

選び方

【外羽根式】

羽根が甲を覆うようになっている革靴。靴紐を外すと羽根が開くので、内羽根式に比べて着脱やフィット感の調整が容易で、通常のビジネスシーンや普段使いなどに、カジュアルなシーンでの着用に適しています。

＊つま先（トウ）のデザイン＊

羽根の形状とともに、革靴の印象を大きく左右する要素はつま先のデザインです。

種類が豊富にあり、どれを選べばよいのか悩むどころではありませんが、ビジネスシューズとして着用するうえで間違いがないのは、次の2種類です。

「ストレートチップ」

甲部の先端に横一文字の縫い目がある、やや細身のオールドツクスなデザイン。冠婚葬祭からビジネスまで、フォーマルなシーンに幅広く対応できます。

「ブレントウ」

甲部の先端に一切の装飾が施されていないデザイン。つま先に丸みがある場合は、ややカジュアルな印象を与えます。

カラーと細部の特徴

＊カラー＊

ビジネスシーンや冠婚葬祭において、カラーは「黒・茶・焦茶」を選ぶのが無難でしょう。明るい色の場合は、スーツと合わせたときにカジュアルな印象が強調されてしまうためです。

＊細部の特徴＊

フォーマルな着こなしが必要な場では、次の特徴があるシューズは避けたほうが無難です。

- ソール（靴底）が厚い
- コバ（靴底の側面）が張り出している

- つま先が極端に丸い／尖っている
- つま先に穴飾り等の装飾が多くある

- 靴紐を通す穴（アイレット）の数が多い／少ない（一般的なビジネスシューズは5個）

ここまでの内容を踏まえると、「内羽根式」で「ストレートチップかブレントウ」タイプの「黒い」ビジネスシューズであれば、すべてのフォーマルなシーンに対応できます。

ただし、先述のようにカラーと細部の特徴次第では、周囲に与える印象が大きくカジュアル寄りになります。そのため、「革靴のどの要素がフォーマル／カジュアルな印象を与えるのか」を知っておくと、シーンに応じてビジネスシューズを選ぶことができます。

サイズ選びのコツ

＊足長と足幅を把握しておく＊

新たに靴を購入する際には足のサイズを確認しますが、一般的に足のサイズとされているのは「足長」（縦の長さ）です。しかし、本当に自分の足に適したサイズを

選ぶには、「足幅」（ウィズ・親指の付け根から小指の付け根までの横の長さ）を知っておくことも重要です。

＊試着時のチェック項目＊

ビジネスシューズを試着する場合、次の項目を確認しておくこととサイズ選びで失敗する可能性が下がります。

- 足長と足幅のサイズ
- 足を入れた時に不快感や過度な窮屈感はないか
- 歩いてみて不快感や過度な窮屈感はないか
- 靴下の厚み（実際に着用するシーンで履くものと厚みは同じか）
- 試着する時間帯（夕方や夜は足がむくむので、日中と夕方以降でのフィット感の違いを想定しておく）

＊サイズが合わない場合の対応＊

つま先やかかと部分には、靴の形状をキープするための芯材が入っています。素材や履く頻度にもよりますが、一般的な目安として、1〜2か月で芯材が足に馴染んでくるようになります。

逆に、その期間を超えても足の痛みが続く場合には、サイズが適切でない可能性があります。

サイズが小さい場合には、靴の修理店でストレッチャーという器具を使用することで、横幅と甲部の窮屈さが多少解消されます。

サイズが大きい場合には、靴と足の隙間を埋める2、3mm程度の中敷を足し、靴紐をきつく結び直す対応できることが多いです。

上手に履きこなすポイント

ビジネスシューズを週に5日ほど着用する場合は、2、3足をローテーションして履きましょ。同じ1足を履き続けると革が痛みやすくなり、シワ・汚れ・カビ・臭いなどの原因にもなります。

また、「本革」と「合皮」（合成皮革）のシューズを天候に応じて使い分けるのもよいでしょう。

たとえば、合皮は、本革よりもカビが発生しづらいという特徴があります。多少の防水効果も期待できるため、雨の日の着用におすすめです。事前に防水スプレーをかけておくとより安心です。

晴れの日には、吸湿性と放湿性に長けている本革のシューズのほうが、汗や熱が籠もりづらいうので気持ちよく着用できます。